杉作Ｊ太郎の
マンコラム32

今年の夏が来れば、俺も漫画家デビューして、丸15年になる。

ま、長いよーな短いよーな、中途半端な年数だといえるかもしれないが、とりあえずは切りのいい数字である。15年周年を祝して、記念漫画を執筆してもいいかな～？

いいともーッ！

反応がないのに慣れてるもんだから、ひとりで質問してひとりで応じるのにも風格っつーもんが出てきましたね、グラッチェグラッチェ。

さて、一口に15年といってしまえばそれまでではあるが、俺のよーなタイプの描き手が15年を迎えるというのはある意味で大変しんどいことではある。なにしろ、漫画で生計は完璧に成立しませんからね。この15年間でおそらく3000枚ぐらいの漫画を描いてきているとは思うのだが、みなさんも一目瞭然、おわかりのよーにズバリ言ってヘタでしょ？ちょうど俺がデビューした当時はヘタウマ漫画っていう言葉が流行していたのですが、俺の場合は編集者さんに「ヘタヘタ漫画」って命名されておりました。おまけに自分でいうのもあつかましいが（15周年ということでカンベンしてもらいたい）面白くないし。へりくだって言うわけじゃなく、本音の部分で、よくこんなんで漫画家してるよと思います。ちゃんとやってる人の漫画を見る度に、ああ、もうやめよう……その連続の15年間でした。精神的にもキツい15年間だったわけです。

で、経済的にももちろんキツかった。

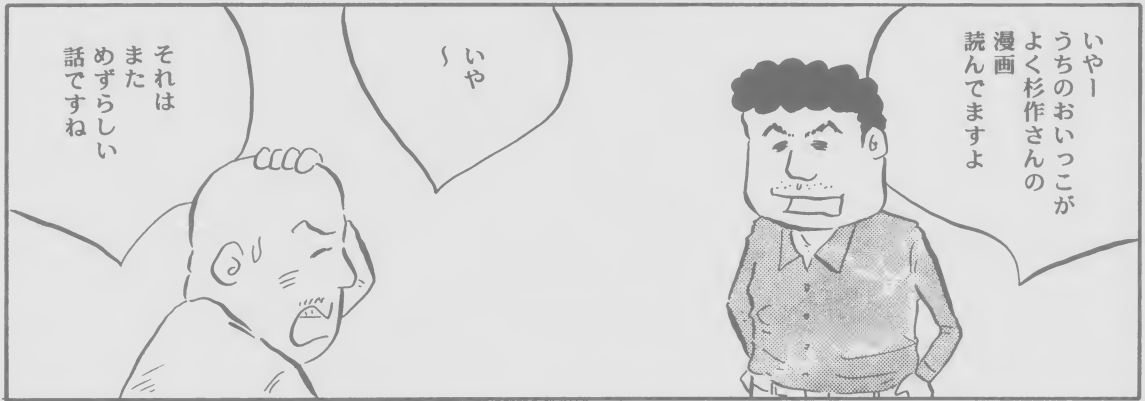
ハッキリ言って漫画１本で喰えたのはなんかの間違いで注文がそこそこあって月産50ページをこなしたデビュー直後の数ヵ月だけでした。あとはもうヒサンの一語であります。生きるために悔しい思いも数え切れないほどしました。ま、知らない人は知らなくていいですからいちいち言いませんが、漫画以外の仕事でなんとかかんとか生き延びてきた……そんな感じであります。早い話が二足のワラジどころか百足（ムカデ）のワラジであります。そーゆー姿に嫌悪感を持つ人も多いです。面と向かってグチグチ嫌味をいう人もおります。だが、結局俺の気持ちをわかってもらう必要もないし、ただ、自分がやりつづければいいだけだな……と、そんな15年だったと思います。

歯を食いしばって、柳に風。

そんな15年間だったと思います。

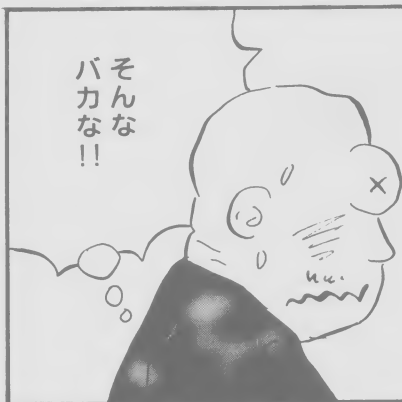
MAN COLUMN BY J,SUGISAKU. VOL.32

漫画家生活15周年記念作品

が、それでも15年もやってるということは、内情を知らない人にしてみれば、そこそこ売れてる漫画でもあるんだろーと思うのであろう。
　うすうす俺が漫画を描いてることを知ってはいるが、詳しくは知らない人の場合、善意の誤解というのが生じるわけである。

そーゆーことを嫌味で言うケースも考えられないわけではないが、嫌味で言う人と善意で言う人の違いぐらいはいくらなんでもわかります。
「いや……それは誰か別の漫画家さんと間違っておられるのでは……」
　言えばいいようなもんですが、相手の間違いを正すだけではなく、その場の雰囲気が悪くなってしまいそうですからな。ホントのことをいえば、相手も恐縮するだろうし。
「ま、いずれ遅かれ早かれ、今の発言が間違いだということはわかるだろう」
　そう思ってその場は早送りで、
「ハハハ、それよりも……」
　別の話題を振ったりするわけですが、鋭い人だとその際の俺のぎこちない態度で間違いをわかってくれるのではないか、そう思ったりしているわけです。
　よくあるんですね、こーゆーのは。

杉作さんって
ホントは
漫画家さん
なんでしょ

とある
アイドルタレントの
場合

私も
子供のころ
読んでた
よーな気が
します

「じゃああんた、子供の頃からガロやエロ本、読んでたの？」
ってことになりますよね。
ま、ひょっとしたら、
「ええ、うちは父親が好きなもんだから家の中にそーゆー本がゴロゴロ転がってました」
なんていう答が返ってこないともかぎりませんが、可能性としてはウスウスだと思います。
だいたい、雰囲気でわかるしね。もし子供の頃からそーゆーのを読んでる人だったら雰囲気が違うから……って読者のみなさん、これは褒め言葉ですよ！
でもとにかく、そーゆーふうに、
「読んでましたよ！」
なんてあきらかに間違いであるという感じの人から言われた場合、こちらの出方というのは実に難しい。
単なる社交辞令だと思って、笑って頭を下げといてもいいのだが、それじゃあなんだかウソツキでしょ？
サギ師一平！
そんな感じになってしまいますから。
思いのほかに、針のムシロなんです。
そーゆーことを言われると。

でも、その責任はやはり自分にもあるわけで。
自分の力量不足ですから。
じゃあ修行すればいい。
簡単な話ではあります。
簡単な話ですが、当事者としては簡単な話でもない。
「なんでできないのか！」
言うのは簡単だし、反省するのも簡単です。しかし実践するとなると難しい。
どーする？
どーする？
どーすんの！
結果、答がないままに、走り続けるわけです。
プランもなにもない。
いや、ないことはないのだが現実的プランではないですから。
まさに、狂った自転車操業。
そんな感じでありました。
「もう、なにもかもやめて、誰も知らない町で一から出直して暮らそう……」
正直な話、今日に至っても常々、そう考えることはあります。

それでもなんとかかんとか今日も描いてるのであります。

てなことを面と向かって言われたことも10回や20回ではない。

だがやめる自分は見たくない。

それがなぜなのか自分でもよくわからないけど。

さて
話はかわるが
今
俺の名刺は
すべて手書きだ

杉作J太郎……なんていうフザけた名前の名刺を名刺屋さんに注文するのがイヤだというのが理由であります。
「なんか、遊びにつきあわされてるんじゃねえか？」
そう思うでしょうから。
「架空の名前で名刺作って、犯罪にでも使うんじゃねえか？」
思ってもしかたのない名前ですから。
だから自分で一枚一枚、手書きにしているのであります。
で、住所と名前だけだとあまりにも相手をバカにしたよーな気がしますんで、一枚ずつ、ちょこちょこっとイラストを描いてます。そしたらなかなかこれが好評でしてな（面と向かってバカにすんな、汚ねーぞ、と言わないだけかもしれないと自分に対しては常に言い聞かせておりますが）最近ではカラーイラストにしております。

完